

大腿骨近位部骨折による手術のため整形外科病棟に入院された患者様へ

「周術期にある大腿骨近位部骨折高齢者の低栄養と歩行再獲得との関連」に関する調査ご協力をお願い

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は、北海道医療大学看護福祉学部の舩橋久美子と申します。

高齢者は低栄養である可能性が高く、大腿骨近位部骨折後の歩行再獲得にも影響しているという背景から、本研究では、**大腿骨近位部骨折で整形外科病棟に入院中の周術期にある高齢者の低栄養と歩行再獲得との関連**について、**全国調査**により明らかにしたいと考えています。このことは、今後の大腿骨近位部骨折高齢者の低栄養の早期発見と治療・ケア、さらには周術期において早期の歩行再獲得や入院期間の短縮に向けての基礎資料になることが期待できます。

なお、本研究は JSPS 科研費 JP21K11093 の助成を受け実施しています。

敬白

記

1. 研究の目的と意義

目的: 全国調査によって、大腿骨近位部骨折で周術期にある高齢者の低栄養と歩行再獲得との関連について明らかにすることです。

意義: 整形外科病棟における大腿骨近位部骨折で周術期にある高齢者の低栄養と歩行再獲得との関連について明らかにすることは、今後の低栄養の早期発見と治療・ケア、さらには周術期において早期の歩行再獲得や入院期間の短縮に向けての基礎資料になることが期待できます。

2. 調査対象者

全国の一般病床 200 床以上の病院にある整形外科病棟の看護管理者 1,191 名となっていますが、2023 年 11 月に大腿骨近位部骨折による手術のために整形外科病棟に入院された患者様の入院中のデータを収集させていただきます。

3. 調査方法と調査項目

本研究は一次調査と二次調査により実施するものであり、二次調査で下記の情報を収集いたします。

- 1) 基本属性：性別、年齢、術式、入院日数、認知機能検査、歩行状態
- 2) 栄養状態：身体計測値（身長・体重・下腿周囲長・骨格筋指数）、血液検査データ

4. 倫理的配慮

- ・本研究は、北海道医療大学看護福祉学倫理審査委員会による承認(No.23N22023)を得て実施しています。
- ・患者様のデータ収集では、個人が特定される情報は収集いたしません。
- ・データは匿名化した上で北海道医療大学にご提供いただくとともに、データベースファイルは、セキュリティ保護を行ったうえで管理いたします。
- ・研究結果を学会や論文誌上に公表する場合でも、匿名性を保持いたします。

5. 連絡先と研究組織

本研究について、ご不明な点がございましたら、下記の連絡先までご遠慮なくお尋ねください。

なお、入院中の上記 3. のデータが本研究に用いられることについてご了承いただけない場合には、3 月 15 日（金）までに整形外科病棟の看護師長様へお申し出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはございません。ご連絡をいただかなかった場合は、ご了承いただいたものとさせていただきます。なお、患者様への謝金はございません。

研究代表者：舩橋久美子（北海道医療大学看護福祉学部・助教、老人看護専門看護師）

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757

Tel 0133-23-1537 E-mail kumi-funahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

研究分担者：山田 律子（北海道医療大学看護福祉学部・教授）

以上